

平成 30 年度の兵庫県と中国・広東省との高校生交流事業に本校 2 年生の生徒が参加し、佛山第 2 中学校での学校生活を体験しました。そのレポートを掲載します。

中国・広東省との交流事業に参加して

2 年女子

今年の 5 月に佛山第三中学校の生徒をホストファミリーとして受け入れた経験からこの事業に興味を抱き、10 日間、中国南部広東省にある佛山市に行かせていただくことになった。平日は佛山第二中学校、休日はバディの家に滞在した。

○佛山第二中学校

全寮制の学校で、広大な敷地に 2,000 人を超える高校生が生活している。朝には 30 分の読書タイム、2 時間目と 3 時間目の間には運動タイム(1、2 年生はエクササイズ・3 年生はランニング)があり、長い昼休み(昼食を含め 2 時間以上)の時間には寮に戻って殆どの生徒が昼寝をしている。



授業は班で話し合ったり、自分の意見を述べたりする機会が日本よりも多く、生徒が積極的に参加している印象を受けた。また、月曜日の朝に開かれる全校集会で生徒が一堂に会する光景は、日本では考えられない程の人数で、壮大なものだった。

○寮生活

平日は校舎のすぐ傍にある学生寮(二段ベッド 5 台・ロッカー・洗面所・和式トイレ・シャワーがある)に、日本人生徒 4 人+バディの中国人生徒 4 人の計 8 人で滞在した。和式トイレとシャワーは小さな一室にまとめて備え付けられており、トイレを跨ぎながらシャワーを浴びる、という日本では考えられない様な習慣を体験した。23 時頃に就寝、6 時半頃に起床で、起きたらのんびりすることも無く、各自、身支度を始めていた。自分の普段の生活よりも随分健康的で、このような部分にも授業に主体的に取り組める要因があるのではないかと考えさせられた。



学生寮は他の部屋の生徒でも出入り自由で、寮の部屋にいると他の部屋の生徒も沢山来てくれた。日本語の漫画を片手に「こんにちは～！」と話し掛けてくれる子や、中国のお菓子や雑貨をプレゼントしてくれる子もたくさんいて、話が尽きることも無く賑やかに就寝時刻まで過ごした。

○食事

学校の食堂でもホームステイ先でも大皿料理を各自の小皿に取り分けながら食べる形式だった。正直な所、初めは苦労して食べるものが多かったが、日を追うにつれて徐々に慣れ、どの料理もおいしく食べられるようになった。パンは蒸されたもの、おかずはピリ辛のものが多く気がした。白飯は日本の白米よりも細長いものがあったが、粘り気や味に大きな違いがあるようには感じなかった。



○観光

学校からの研修で山水区杜馬禅花園や南風古灶を訪問した。杜馬禅花園では自分の「禅」についてのイメージを広げること、南風古灶では佛山市の特産品である陶器についての理解を深めることができた。近年、経済発展が著しい中国内でも、古代から大切に受け継がれてきたものを沢山知ることができた。

○WeChat

私が中国滞在中に驚いたものの1つは、スマートフォン向けアプリの WeChat だ。日本での LINE と同じ様なものだろうと思っていたが、WeChat はもっと未来の LINE を示しているように感じた。現在の中国人の殆どは寮生活を送る学生も含めて、日常生活で現金支払いをほぼせず、WeChat の收付款(Money)という機能を使うことで支払いを済ませているらしい。このような IT を使った生活は日本よりも中国の方が進んでいるように感じた。

○ホームステイ

今回が私にとって初めてのホームステイだったという事もあり、楽しみな気持ちは勿論あったが、ホストファミリーとの対面式ではかなり緊張した。更に、ホストファザーとマザーはほぼ英語を話せないと聞き、上手くコミュニケーションできるか不安になった。しかし、実際にお会いして話を始めると、スマートフォンの翻訳アプリを使ったり、ジェスチャーをしたりして様々な事について話し掛けてくれたので本当に嬉しかったし、不安な気持ちは直ぐに無くなった。

家では中国茶について教えてもらったり、「着物紹介」の授業用に持参していた浴衣を着せてあげたりして過ごした。



朝食には、家の近くの食堂で牛肉入りのヌードルや、米が原料の薄皮の中に肉や野菜が入った腸粉という中国ならではのものを食べさせてもらった。広めの歩道に並べられた簡易テーブルと椅子で朝食をとっていると、なんだか自分も中国人に仲間入りしたような気がした。

昼間は車で広州市や佛山市にあるお勧めの場所(宝墨園・祖廟)に連れて行ってもらった。宝墨園には、つい先日、世界史の授業で習った陶器や、古代中国の官僚任用試験である科挙の問題用紙が展示されていたりしたのでとても興味深かった。

また、ホストブラザーが通っている書道教室と一緒に連れて行ってもらえることになった。私は小学校の頃から

書道を習い続けているので、中国式の書道にも興味があった。書道教室の先生はマンツーマンで私に隷書を中心に教えて下さり、普通の観光旅行ではできないことを体験させてもらえたと感じた。

近くのスーパーマーケットや、お土産物屋さんでは、スーツケースに入り切らないくらい沢山の土産を買ってくれた。ホームステイは金曜の夕方から日曜の夕方までと限られた時間だけだったが、温かく迎え入れていただき、幸せな時間を過ごすことができた。



○さいごに

私はこの10日間で英語力や中国文化だけでなく、相手をおもてなしする気持ちの大切さや、自分の意見を正確に伝えることの難しさなど、沢山のことを学ぶことができた。また、中国人の生徒が積極的に授業に取り組む姿勢は、私にとって大きな刺激となった。

今回の広東省訪問で学んだこと、感じたことを将来に活かしていきたいし、活かさなければならぬと思っている。もっともっとレベルアップして、また佛山に学びに行きたい。谢谢!!